

改題

土楽たより

どうらく

Kogure 農場 8月号 (NO28)

2012年8月10日 (金) 発行

【農暦】熱中症が怖い暑さを避けて草取り

○やはり草の繁茂力に負けてしまった。先日、東京から屋久島に移住した元会社の友人が来られた。開墾して畑をやっており、バナナ、パパイヤ、マンゴーの写真を見せてくれた。これが私の実力ですと、草が生い茂っている畑を見て貰ったが、少し恥ずかしかった。おみやげに頂いた“三岳*”の美味を楽しみながら深夜まで語らった。“友遠方より来たるまた楽しからずや”である。菜園を楽しんでいる仲間が多い。今年こそはと思ひ、暑さと雑事(休息タイムと考えている)も多くあったが、怪我などのアクシデントなどでの遅れを修正出来なかった。暑さのため朝晩の短時間の黒豆、小豆の草取りを続けている内に他の所は草の繁茂力に負けてしまった。黒豆の除草もまだ残っているあり様である。

○こんな状況にあるがトマト、茄子を収穫している。ピッコロファームの共同圃場のトマトとシシトウは少量ながら2回目を出荷した。豪雨のニュースが羨ましくなるほど笠間は雨が降らない。草取りで土埃が立つ程である。疲れて作業の手を休めたりする時には草が保水の役割をするのではと考えたりしてしまう。それにしてもこんなに乾燥しているのに草の生育は衰えない。草取りの後を保水の意を込めて土寄せすると土煙があがる。草も取るべき時に取ればこんなに苦勞をしないで済むだろうと思う。

○日刊ゲンダイの取材を受け農的生活に入った経緯や農への思いを語った。13日、14日、18日と3回に亘って掲載された。取材時にはややまともな状況にあったが、草の生えた荒れた畑を眺めていると農への思いと現実の落差に重^{おも}悲しい気分になる。28日に大阪行きの新幹線の車窓から家々の狭いスペースまで拵がる“みどりの絨毯”の景色を見ていたらところどころに草が生い茂っている所がある。ある確率であるように見えた。現役の時の出張の際に瑞穂の国の豊かさを実感させてくれた同じ景色である。だが陰りが一段と増した様な気がした。そして我が畑と重なってしまう。“みどりの絨毯”は別格であるが北海道のジャガイモ畑の景観も素晴らし



<雄国沼の湿原に咲く日光キスゲ>山野草の会で福島^の雄国沼へ行く。14日撮影

いにつきる。多くの篤農家の田畑も景色としてきっと美しくみえる。美しい畑に^{こだわ}拘ろうと頑張ろうとしているが、従来よりも荒れて来てしまっている様だ。

○暑さとオリンピックのテレビ観戦で体調を乱されながらも一部でも良い状態にと黒豆、小豆の所を集中して草取りをしている。トップアスリートの競技に感動させられてしまい“草取り”を忘れそうになる。どの種目も見入ってしまう。安易な言葉で表現出来ないが競技レベルの高さとそれを支える鍛練に感動させられるのだと思う。時差で辛いがつい見ってしまう。熱中症が怖い暑さを避けて草取りに向かう。感動の余韻がまだ残ったままである。秋冬野菜の準備も進めたい。美しい畑はその先にあると思うので。

* “三岳”は15-6年前になるが屋久島の宮之浦岳の登山した時に美味しい焼酎と深く記憶に残っていた。人気があり出荷量が増え、味が落ちたと言われていたが美味しかった。

【楽農】 トマトとシシトウの初出荷

<ハウス> ; 大型トマトの収穫

<畑 A> ; 周辺の草刈り、茄子とピーマンの収穫、
キャベツとネギの畝の草取り。

* ヤーコン、白茄子など生育中。草や虫にやられているものが多い

<畑 B> ; トラクター、耕運機で除草
黒豆、小豆、金時の草取り

* ピッコロファームの共同圃場のトマト、シシトウの収穫と出荷



<初出荷のトマトとシシトウ>

8日にも2回目を出荷。4日撮影

【楽市】 イベント交流・直売など

○山野草の会の自然散策（7月14日）

福島雄国沼の湿原の散策をする。帰り大内宿を回って帰る。

○グリーンジム本戸倶楽部（7月16-17日）

予定通り行われたが怪我の抜糸のため不参加とさせて頂いた。

○みどりの風生産部会の直売所視察会（7月25日）

埼玉の花園、栃木の館林の直売所を見学する。品揃えは豊富で、朝とりなどのこだわりがある。売ることの難しさを感じた。藤で有名な足利のフラワーパークへも寄る。

○エコピア柏の環境散策（8月2日）

水の都大江戸クルーズに参加。日本橋を起点に水運からモーターゼネレーションへの変遷を興味深く見る。



<販わう埼玉の花園直売所>JAの直売所の視察に参加する。25日撮影。

【つぶやき=Tweet】 抹殺された？秀吉の大阪城

○最近はこのことを取り上げる事が多い。歳をとって時間の融通がきく効くことでか本を読む機会が増えている。現役時は出張の移動時間を利用して本を読むのを楽しみしていたが1人になれる時だけで中々機会に恵まれなかった。今でも読む時間は限られている。もっぱら床に入ってから読む。最近、習慣化して来ている。読んでいるとつい伝えたくなるからである。今日(10日)に司馬遼太郎、陳舜臣の“対談中国を考える”を読み終わった。細切れに読んでいて最後の部分だけの記憶になってしまう事がある。1978年発刊の本で本棚にあったものである。昨年北京に行った事や司馬遼太郎の歴史観にも興味もあり、歴史的にも深い繋がりある中国に関心もあり再読？して見たかった。歴史の必然や過酷さを感じさせられた。

○この本を読んでいる最中に、たまたま大阪城を見学する機会を得た。大阪城は太閤秀吉の城と思っていたがそうではなかった。秀吉の城は土中深く埋没されていて今ある城は城壁の輪郭も天守閣の位置も違うと云う。大阪城は焼失したのだから当然と云えば当然の事かも知れないが、家康によって命じられ造られた大阪城は秀吉の大阪城を痕跡も含め抹殺するために造られた様にも思えてならない。歴史は冷酷である。今でも血を求めている。たった今、シリアだけでなく血が流されている。6日、9日と原爆の記念式典が行われている。9・11、3・11からも報復や騒ぐだけのものであってはならない。歴史から学ばなければならぬものは多い。司馬遼太郎の本を数冊、昨年末頃から読んでいる内に歴史が今まで以上に気になっている。

○時差で辛く体調を崩しそうになりながらもオリンピックをテレビ観戦している。私の心情がさせているのか感動が多い。日本の選手が活躍しているだけではない。アスリートの競技には感動だけでなくキタナイものを浄化する救い？の様なものがある様な気がする。自然に感動や癒しがあるのとは異なるものだが大事なものを感じる。農を通じ創りたいものがあるのだが一里塚も見えていない。またも固い話にしてしまった。次回は楽しいものにしたいためである。

***ビールは格別だがトマト、茄子も美味しいです。**
汗をかきに来ませんか。笠間に、kogure農場にお越し下さい。

【特に編集せずランダムな構成にします】



＜炎天の大阪城＞過酷な歴史を見る。大阪へは何度も行っているが初めて行く。30日撮影。



＜福島の雄国沼＞湿原に日光キスゲ。豊かな自然が残っている。14日撮影。

発行者；Kogure農場・小暮

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

メール；torao-k@nifty.ne.jp

HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>